

生駒

生駒市議会の定数(24)と報酬(月額57万円)削減を求める市民の動きが相次いでいる。議会側もこの問題を議論しているが、結論は出ていない。背景には市民側と議会側の意識の隔たりがある。同市議は来年4月の統一地方選で改選される予定で、厳しさを増す市民の視線に対し、議会側がいかに説明責任を果たすかが問われている。

◆市民側の動き

市民団体「見張り番・生駒(阪口保代表幹事)」が定数6、報酬30%削減を目指し、15日まで署名活動を展開している。地方自治法に基づく条例改正の直接請求に向け、既に本請求に必要な署名数(有権者の50分の1)約2000を大きく上回る署名を集めている。

一方、「市議会議員の定数と報酬の削減を求める会」(池田司代表)も9月4日、定数4、報酬15%減実現のため、直接請求に取り組み方針を決めた。ただ、見張り番の署名数によっては独自の活動はしないという。

定数と報酬削減求め署名

◆議会の対応

今月8日の議会改革に関する検討会で、議会活性化部会(7人)の約2年にわたる検討結果が報告された。定数は「2、4人の削減を考えるべき」という付帯(少数)意見が付いたものの、人

【熊合仁志】

路和 密着

に前向きな会派は「市民派クラブ」(6人)だけ。改選に間に合わせるには12月議会で条例改正が必要だが、そんな状況にはなっていない。

◆隔たり大きく

口規模などから現状維持とする内容だった。報酬は合意に至らず、「据え置き」「15%以上の削減」「引き下げを含め全議員で審議」などの意見を併記した。定数、報酬両方の削減

市民の動きの背景には、「報酬に見合う仕事をしていない」という議会への根強い不信感と、「財政状況が厳しさを増す中、市民に痛みや負担を課す前に自ら身を切るべきだ」という思いがある。

議会は市民への説明を

本会議や常任委員会など正式な会議時間数だけで「時給7万円と高額」と主張する見張り番に対し、議会側は「議員活動が分かっていない」と強く反発する。削減に賛成の議員も「多くの市民に議員の仕事や姿が見えておらず、議員と市民意識のかけ離れが大き過ぎる。耳に心地よく響く見張り番の主張に危うさを感じる」と話す。



ハンドマイクで署名を呼びかける「見張り番・生駒」の阪口保代表幹事一生駒市の近鉄生駒駅前で9月16日

見張り番の駅前での署名活動では、自ら足を向けて、署名する人が目立つ。40代の女性は「生駒は文化への投資が少ないと感じる。元議長の汚職事件に関し議会の責任は大きく、緊張感を持ってほしい」と語った。

実現しない。しかし、改選を控えた議員にとっで、市民の署名は大きな「外圧」となる。市議会が市民への説明責任を果たし、「かい離」を埋めて理解を得る努力をするか。市民は注目している。